

平成 29 年度 第 2 回 磐田市遠江国分寺跡整備委員会 議事要録

1. 日時 平成 30 年 2 月 13 日 (火) 15:15～16:30
2. 場所 磐田市役所西庁舎 3 階 303 会議室
3. 出席者 ①整備委員：10 名
上原真人委員長、山下晃副委員長、石上英一委員、中島義晴委員、平野吾郎委員、草地博昭委員、虫生時彦委員、澤元教哲委員、小杉達委員、林浩巳委員 (箱崎和久委員・星野勝彦委員は欠席)
②助 言：静岡県教育委員会文化財保護課 (欠席)
③事務局：村松教育長、秋野教育部長、文化財課＝高梨課長、村松課長補佐、大村副主任、安藤囑託
④基本設計委託業者：(株)フジヤマ 文化財研究室＝渥美係長、都市・地域創造部＝中村係長、鈴木主任
⑤傍 聴 者：なし

4. 会議要旨

- (1) 開会
- (2) 磐田市教育長あいさつ
- (3) 整備委員会委員長あいさつ
- (4) 議事

[1] 発掘調査について (事務局説明、パワーポイントで説明)

- ・指定地内の発掘調査のうち、3か所は便益施設の整備に伴う調査だが、遺構は確認されなかった。
- ・塔跡は既存の構築物でかなり遺構が破壊されていたが、焼土とともに多量の瓦が出土し、火災にあったことが明瞭であった。瓦の下に木製階段があるか確認したが見つからなかった。
- ・現在の国分寺の周辺の発掘区は、建物を敷地の東側に移転して西側を公有地化するために行なった。掘立柱の跡が見つかった。

<質疑応答、意見>

委員 古代寺院で金堂や講堂等のほかに建物があつた例は？

委員長 安芸国分寺では講(師)院という中央から派遣されたお坊さんがいた建物が見つかつている。国分寺の中心伽藍である金堂・講堂の西側や東側から掘立柱の建物が見つかつた例がいくつかある。

委員 また新しく発掘調査をすれば何か見つかつるのか？

事務局 掘立柱は、現在の国分寺の移転に関連して必要となつた調査で見つかつたもので、追加調査は復元整備に関わるものが主なので、今後は少ないと思う。

委員 お坊さんは国分寺の中に住んでいたが、俗人は築地の外側に住んでいた。国分寺がどう設計されていたかという点では大変重要な発見である。

〔2〕 整備基本設計について（事務局説明）

- ・昨年度策定した基本計画に基づき、再整備の基本設計を策定している。
- ・金堂や塔などの建物跡に基壇を復元する。南大門から僧房までの中軸線をつなぐ園路を整備する。トイレや展示スペース、四阿などの便益施設を設置する。
- ・復元整備の前段階として、全体をフラットな状態とするための造成、現整備基壇や収蔵庫など既存施設の撤去、樹木の伐採・整理など、基盤整備を行う。
- ・整備の中心は遺構整備で、発掘調査によって判明した正確な位置・規模で再度復元整備を行う。地下に残る遺構の保護を優先し、基壇の構造が木を用いた木装基壇であることがわかるような整備を行う。
- ・塔跡は残存する礎石を露出させて見学できるように整備する。金堂・講堂・僧房は調和のとれた高さで設計している。
- ・木装基壇は、コンクリートのL字壁に化粧木材を貼り付ける構造を考えている。材質は、木装基壇は擬木か木材か、塼はレンガか石かを検討している。

<質疑応答、意見>

委員長 木装基壇の復元に分厚いヒノキ材を使ったらかなり費用がかかるし、長持ちしないと思っていたが、今回の資料では値段は木材を使った方が安く、耐久年数に大きな差がないことがわかった。具体的にどう施工していくかご意見をいただきたい。

委員 木装基壇はヒノキにこだわるのか？

事務局 炭化材を分析した結果、ほとんどがヒノキだった。

委員 長持ちさせたいとすれば、擬木を使うくらいなら、クリの木を検討してもいいと思う。

委員 擬木とした場合、ヒノキは特注か？

事務局 施工例が少なく特注品になる。

委員 全面木装基壇で整備する方針だが、塔の礎石を見せながら基壇を整備するのはかなり難しいことが予想されるので、場面によっては整備の方法を一部変えてもいいのではないか。木装基壇を見せるところ、今の整備も歴史だと捉えて、土盛りだけとするとところ等いくつかの方法を併用するのはどうか。

委員 回廊や金堂は、発掘調査で検出されたのだから、全体を木装基壇で復元するのは文化庁には分かりやすい。整備の目的は正しい復元をすることにあって、それで再整備が認められているという説得ができなくなる。

事務局 発掘調査で講堂は位置が違う、回廊は大きさが違うことが分かったので、かなりの部分を木装基壇で作り変えないと中途半端なものになってしまう。埋殺しにしなければ残らないものは残し、取れる所は個別に当たっていくしかない。

委員 50 cmの盛土をすることによって生じるリスクを何によって保護するか、木装基壇かそれ以外かという問題だ。

事務局 今回の整備は新しく調査をしてその結果を反映するのが大前提。証拠があるところは木装基壇でやろうと基本計画を策定した。ただ、その整備で遺構を壊してはいけないので、実施設計を進める中では多少変更があるかもしれない。

委員長 遺構を護ることと発掘調査成果をきちんと示すことは大原則だが、細部のことになるとフレキシブルな考えでいいのではないか。

事務局 意見を踏まえて、基本設計が固まった段階で県・文化庁に報告していきたい。

〔3〕 平成30年度の遠江国分寺跡整備事業の予定について（事務局説明）

- ・再整備の実施設計、再整備に係わる発掘調査、指定地内にある国有無番地（畦畔等）の取得、未買収地の公有地、整備委員会及び専門委員会の開催、社会科副読本『遠江国分寺』の印刷その他、国分寺まつりでの展示等予定。

<質疑応答、意見>

委員 国有無番地の取得は、手続き上、しないといけないのか？

事務局 建物（トイレ等）を建てる場合、番地が無いところには建てられない。大体国のものだが、市の土地にして番地を発生させる。

委員 社会科副読本は非常にいい。磐田はいいところだと思いつながり勉強できる。利用面が資料にないが、スマホの利用はどうか？金堂はこんな形だったとか。絵で分かりやすく説明する考えがあるか？それと、国府・国分寺・国分尼寺・府八幡宮・移転した国府があり、動線として非常に面白いところだ。磐田の古代都市の空間をアピールするのが、市のビジョンとして考えられるか？

事務局 スマートフォンやタブレットの利用は、AR事業、それらをかざすと建物が見えるというものを整備したいと考えている。古代都市のことは、基本計画でも謳っているが、文化財課だけではできないので、関係する部署と連携を取りながら、整備とともにPRにも力を入れていきたい。

〔4〕 その他

- ・（石上委員より）木簡学会が6月に開催される。遠江国分寺から墨書土器など大変重要なものが出ているので、関心があれば参加していただきたい。また、3月に幢幡がテーマの研究大会がある。幢幡は国分寺ができたときに朝廷から全国の国分寺に配られたもので、高さ10mくらいの柱を建てて掲げた。東大寺の儀式のときも掲げていた。遠江国分寺ではその支柱の2つの穴が見つかっている。参加していただきたい。

〔5〕 閉会